MONEX 小委員会，POLEX 小委員会について

岸　保　勘三郎*

1978年～79年には第1回地球大気開発計画（First GARP Global Experiment, 略称 FGGE）が国際協力事業として世界的規模で行われようとしている．

この観測計画では全地球的な大規模な観測が主体となっているが，FGGE の地域的な副計画（regional sub-programme）として，モンスーンを主題とした MONEX，極地方の熱収支を主題とした POLEX も計画されつつある．

このような背景もあって，昭和49年10月には MONEX Study Conference（本号の新田尚博士の報告参照）がシンガポールで開催された．また昭和49年9月には POLEX Study Conference もオスローで開催された（日本からは極地研の楠教授が参加）．

昭和49年11月19日の日本学術会議国際地球観測特別委員会の総会に，GARP 分科会より GARP 分科会の中に MONEX 小委員会，POLEX 小委員会を設置したい旨申し入れ，正式に小委員会の発足が承認された．小委員会の主目的は上記のような FGGE の sub-propramme である MONEX, POLEX への参加について，日本の具体案を作成することである．この具体案はシンポジウムなどを通して広く会員の意見が反映されるように運営される予定であり，具体案の大体の骨組みは本年中に作成するよう計画されている．

なお去年12月5日に開催された GARP 分科会では，下記のように小委員会委員が選出された．

MONEX 小委員会：山本義一（東北大），礒野謙治（名大水研），岸保勘三郎（委員長，東大），吉田耕造（東大），浅井冨雄（東大海洋研），廣田勇（京大），光田寧（京大防災研），須田建（気研），斎藤直輔（気研），有住直介（気象庁），土井謙二（気象庁），清水逸郎（気象庁），伊藤宏（気象庁），朝倉正（気象庁）

POLEX 小委員会：石田完（北大低温研），田中正之（東北大），岸保勘三郎（東大），樋口敬二（名大水研），楠宏（委員長，極地研），川口貞男（極地研），高野健三（理化学研究所），関口理郎（札幌管区），有住直介（気象庁），斎藤直輔（気研），駒林誠（気象大）吉田菊治（気象庁）

今後の小委員会の活動方針により，委員の追加，作業委員会の設置などが考えられている．

MONEX 参加の具体的な提案としては，(1) 大規模じょう乱の解析，(2) 数値シミュレーション，(3) モンスーンに関連して梅雨の形成，維持，発達，消滅の取扱い，(4) 亜熱帯反流（黒潮）とモンスーンとの関係といったものが現在考えられている．POLEX 参加については案が出来次第天気誌上に発表される予定である．

* GARP 科会幹事，東京大学

会員の広場

秋季大会を終えて

昭和49年度の日本気象学会秋季大会は11月6～8日，福岡市電気ビルで催された．当番支部となって世話を担当した手前，駄筆を弄するしだい．このせちがらい世情ゆえの苦労は大方のご想像にまかせることにする．

今大会の運営は，一つには気象台や大学の方々の献身的な善意好意が得られたという幸運と，二つには会場運とに救われて大過なく果し得たものと思っている．今ふり返ってみて，予算や労力の工面など，実行段階のことについての合理化．近代化を検討する必要があるようにも思う，とだけ言っておく．

ともあれ学会の全国大会の場が，各分野に亘ってじかに聴講できるという格好の研修の場として，地元のとくに若手会員にとって価値ある催しであると言えよう．5年に1度の好機を自己のメリットにしてとらえ，技術向上の足がかりにでもなるとすれば，何人かの会員が支払った労苦も酬いられるというもので，そんな姿こそが本秋季大会がもつ大きな意義であるに違いない．

（福岡管区気象台　長田英二）